

# センター便り

公益財団法人浅香山病院 臨床研究研修センター  
〒590-0018 大阪府堺市堺区今池町3丁3番16号  
TEL : 072-229-4882 (代)  
ホームページアドレス : <http://www.asakayama.or.jp>



臨床研究研修センター長より

## 「立ち読み」と「突っ込み」のすすめ

臨床研究研修センター長 しのさき 篠崎 かずひろ 和弘

### 立ち読みのすすめ

浅香山病院医学雑誌の2号を発行しました。手に取っていただけたでしょうか。執筆者に知人がいたら「読んだよ」と声を掛けて頂けませんか。執筆者への何よりのご褒美です。どうぞよろしく願いいたします。

論文もそうですが、エッセイが今回も充実しています。どれも忘れられない内容になっています。立ち読みもできます。

少し時間の取れる方は論文の「要約」と図表だけでも立ち読みしてください。「要約」は研究の目的、方法、結果、その解釈と意義の順番に記載されています。「結果」が「目的」の答えになっているのか、考えてみてください。

もっと時間の取れるかたは、論文全体に目を通してください。とは言え、冒頭から読み進めると挫折するものです。そこで、「目的」と「結果」をまず、確認してください。短時間で確認するコツがあります。論文は一定の構造を持っています（これを論文の解剖学と呼びます）。それによると「目的」は「はじめに」の最後のパラグラフにあります。「結果」は「結果」の項を見てもいいですが、もっと簡潔な記載は「考察」の最初のパラグラフに集約されています（例外も多いのですが）。できれば、図表に目を通すると「結果」の理解が進みます。ここで小さいな「突っ込み」をします。結果の解釈は論理的か、「目的」の回答になっているのか。「ほんまかいな、甘いんとちゃう」。興味ができたら全文読破に挑戦です。

### 「突っ込み」のすすめ

いい突っ込みが専門職としての我々を育てます。たとえばセレネース筋肉注射に際しては副作用のパーキンソン症状を予防するためにアキネトンを混注するのが古くからの習慣ですが、今回、専攻医がその根拠を質問してくれました（「研修医、専攻医からの臨床疑問に答えるコーナー」）。調べてみると十分な根拠がありません。ガイドラインにはこの混注へのコメントはありませんが、一般論としてアキネトンには抗コリン性副作用（散瞳、頻脈、口渇など）があるので安易な併

用を戒めています。そうすると、この混注にも疑いの目を向けるべきでしょう。ただセレネース単独筋注が混注より安全であるとする根拠がないことにも留意すべきでしょう。

別の臨床疑問に就労支援があります。就労は社会的繋がりを再獲得することを通し自尊感情を育て、セルフケア能力を増進し、再発予防効果に繋がるとされてきました。私もこの意見に賛成です。そこで就労支援がリハビリ支援の大きな手段となっています。しかし就労支援事業への非医療資本の参入の問題もあって就労自体が目的化されています。「ご本人たちの声を聴いてみよう」と考えて当院などでフィールド研究をされたのが駒澤真由美（立命館）さんです。その成果をご著書にまとめられました（『精神障害を生きる——就労を通して見た当事者の『生の実践』』2022年）。そこで今回、総説「『リハビリ』概念を再考する」をご寄稿いただきました。

日々の臨床のなかで疑問に思うことはありませんか。あるいは専門家として自負があるけど実は独りよがりではないのかと立ち止まることはありませんか。こんな時はガイドラインなどに立ち返るのが基本ですが、臨床疑問の多くは往々にしてエビデンスがありません。

「臨床疑問に答えるコーナー」を看護やリハビリテーション領域にも広げてみてはいかがでしょうか。たとえば看護の若手から臨床疑問を貰って、先輩が答えてみるのも面白そうではありませんか。いいアイデアがあれば各領域の編集委員に相談ください。

### 「突っ込み」から研究へ

「突っ込み」を研究に育ててみませんか。専門領域の知識・技術に習熟するなかで、問題を発見し解決する能力が鍛えられ（問題発見・解決能力）、論理的に情報を分析し、的確な判断を下す能力（批判的思考スキル）が向上し、研究結果を他の人に正確かつ効果的に伝えるコミュニケーションスキルが向上します。これらの成長は日々の臨床での自信と信頼に繋がっているはずです。



## 初期研修医OBからの近況報告

むかい だいき  
向井 大貴

(2019年度・協力型初期研修)

お世話になっております。2019年に浅香山病院での初期研修させて頂き、その後の近況報告をさせていただきます。浅香山病院での研修は、循環器や呼吸器・消化器疾患等の一般的な内科疾患の基本的な知識を学ばせて頂きました。また、精神疾患を患われている患者様も多く、精神的ケアを行った上での内科的な治療や、それらの疾患に関連する社会的背景や問題点についても深く学びました。患者様への個別対応や、患者様とのコミュニケーションの重要性を浅香山病院での研修を通じて学ばせて頂きました。

その後は、大阪公立大学での研修で、悪性疾患であるにも関わらず、内科的治療で根治的治療を目指すことのできる白血病やリンパ腫等の血液疾患の診療に興味を抱き、大阪公立大学の血液内科・造血細胞移植科に入局し、日々血液疾患の患者様の治療を中心に診療に精進しております。

血液内科では、貧血や多血症などの赤血球疾患・白血病やリンパ腫、多発性骨髄腫などの白血球疾患（血液腫瘍）・血小板や凝固因子異常の患者様を中心に診療させて頂いています。特に血液腫瘍の患者様がが多く、化学療法を行うことが多いです。血液疾患は、命に係わるものが多く、治療も、数カ月～中には半年以上入退院を繰り返して、長期に渡って治療を行い、患者さんやそのご家族と深く関わり、支えることで、共に困難を乗り越える喜び

や満足感を感じることも多いです。また、突然、自覚症状なく、検診などの異常で急に診断されることも多く、初めての抗がん剤治療を行う上で不安が大きい方や年齢問わず罹患する疾患であり精神疾患を併存されている方も少なくありません。こちらでの経験を活かし、日々、患者様がなるべく不安を取り除けるように努めています。

そして、現在、大阪公立大学の内科研修プログラムの一環として、2023年度からは天理よろづ相談所病院で内科研修を行っております。この病院では、一般的な白血病やリンパ腫の化学療法の診療に加えて、造血幹細胞移植の治療にも携わっております。造血幹細胞移植は、重症な血液疾患や免疫不全症の患者様にとって唯一の治療法です。当院では特に患者様のご家族にご協力頂いて行う、半合致の末梢血造血幹細胞移植を多く行っており、その過程は非常に複雑ではありますが、最善を尽くしています。

浅香山病院での研修期間は私にとって有意義なものであり、その経験が今の私の基盤となっております。先生方やスタッフの皆様から学んだ知識と技術、そして患者様への温かいお心遣いは、私の医療人としての姿勢に大きく影響されました。これからも、その教えを忘れず、日々の診療に取り組んでいます。何かお力になれることがありましたら、どうぞお知らせください。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

### 『浅香山病院医学雑誌』 - 論文紹介 -

堀井 奈都子 医師

「薬剤性QT延長症候群より多形性心室頻拍に至った1例」

浅香山医学 vol.2 : 84-87, 2023

堀井 崇博 医師

「急速に進行した感染性心内膜炎の1例」

浅香山医学 vol.2 : 88-91, 2023

臨床研究研修センター副センター長／一般科副院長

おおむら たかし

大村 崇



浅香山病院医学雑誌第2号に掲載された初期臨床研修医の症例報告を2つ紹介いたします。

一つ目は「薬剤性QT延長症候群より多形性心室頻拍に至った1例」です。QTとは心電図波形でP波、Q波、R波、S波、T波およびU波と称するうち、Q波の始まりからT波の終わりまでをいいます。このQTの時間が異常に長くなるのがQT延長症候群です。多形性心室頻拍はT波に期外収縮のR波が乗った時（R on T）に出現するととても怖い致死的不整脈で、QTが延長する事でR on Tに成り易くなります。基礎疾患にもよりますが、論文でも紹介されているように様々な原因でQT延長が起こります。このQT延長がみられる場合に、まず最初に注意する事は、電解質異常と薬剤の影響です。症例は典型的な薬剤性で、皮肉にも抗不整脈薬によるものでした。頻脈性不整脈を疑い投与されたVaughan Williams分類1c群のピルシカイニドの通常量投与が、腎機能低下している患者には過剰投与となった事で起こったQT延長であり、多形心室性頻拍を引き起こしてショック状態となりました。状況に

よっては突然死していたかもしれません。厳しい言い

方をすれば、医原性疾患、医原性有害事象に当たる症例と思われれます。医療を行う際には十分注意が必要な事を再認識する事例です。筆頭著者は分かりやすく症例提示し、原因と治療に関して考察しています。是非一読して頂き、今後の医療の参考として頂ければと思います。

二つ目は「急速に進行した感染性心内膜炎の1例」です。この症例の主訴は発熱です。運悪く、コロナ禍まただ中での発症でした。複数の医療機関を受診して診断がつかず、この間の検査より敗血症が疑われ、発症後1週間して当院紹介受診となりました。コロナ前と比較すると、この経過は医療崩壊の一端と言えるのではないのでしょうか。感染性心内膜炎は、心臓の内側を覆っている心内膜に生じる感染症で、通常は心臓弁に感染が及んで菌の塊の疣贅を形成し、更には弁破壊から弁膜症となります。この感染性心内膜炎の怖いところは、弁破壊が進行して心不全が出現すると心不全もどんどん進行する事

や、疣贅が動脈血流に乗って飛んでいき、塞栓症を引き起こす事です。本症例では来院時に僧帽弁弁尖に疣贅を認め、弁破壊から高度の僧帽弁逆流があり、無症状ではありましたが既に多発脳梗塞を認めていました。急速に進行している感染性心内膜炎でした。前医での抗生剤投与で血液培養から起炎菌は同定できませんでしたが、急

速な進行はブドウ球菌によるものが疑われ、これはアトピー性皮膚炎から血流を介しての感染であると考えた場合に想定される菌種でもあります。筆頭著者は特に感染経路と起炎菌に関して詳しく考察していますので、是非一読して頂きこの疾患の診断と治療の参考になれば幸いです。

## 2023年度 初期臨床研修医の紹介

浅香山病院では2023年4月より基幹型臨床研修病院として澤隆祐医師、並河由華医師が2年間の研修、また大阪公立大学医学部附属病院の協力型臨床研修病院として原田晃医師が1年間の研修をスタートしています。

今後も当院では医師をはじめとして、様々な医療従事者の育成に力を注いでまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いたします。



臨床研修医 澤 隆祐

今年の4月より浅香山病院で初期研修医として勤務させていただいております、1年目の澤隆祐と申します。

実際に働き始めるまでは不安と緊張でいっぱいでしたが、病院の先生方や職員の方々に優しくかつ熱心に教えていただき、日々充実した環境で研修を行うことができています。

この6ヶ月間では、主に循環器内科と消化器内科で研修を受けさせていただいております。回っている科はもちろん、他の科の先生方にも疑問に思った

ことを質問しやすく、非常に勉強になっています。日々の診察や救急外来では、患者さんの気持ちを考えながら信頼関係を築いていくことの大切さと難しさを実感しております。

また、私は将来の進路として精神科を考えていることもあり、浅香山病院での研修を志望いたしました。B2病棟で内科疾患を合併した精神科の患者さんを診察したり、当院精神科かかりつけの患者さんを救急外来で担当することで、この浅香山病院でしかできない貴重な研修を経験できていると感じております。

まだまだ未熟でわからないことばかりでご迷惑をおかけしてしまうことも度々あるとは思いますが、精一杯頑張りますので今後ともよろしくお願いたします。



臨床研修医 並河 由華

研修医1年目の並河です。入職当初は緊張しておりましたが、先生方をはじめとして浅香山病院のみなさまが非常に温かく迎えてくださり充実した研修生活を送ることができております。また、同期の研修医や2年目の研修医の先生方もとても話しやすくわきあいあいと楽しく過ごせています。研修担当の大村先生もいつも研修医のことを気にかけてくださるので不安なく研修できています。

研修内容については、私自身医学的知識や技術に乏しく戸惑ってばかりなのですが、先生方がいつも

最後まで熱心に指導してくださるので多くのことを学ばせていただいております。

先生方には申し訳なさ感謝しかありません。できるようになったこと、できなかったことを真摯に受け止め今後の研修生活に活かしていきたいと考えております。

先生方だけでなく、宇野師長をはじめ、看護師のみなさんやスタッフのみなさんも気楽に話しかけてくださったり相談にのってくださったりとアットホームな病院の雰囲気にも包まれながら真剣に医療を学ぶことができているのも当院ならではの感覚です。

未熟な研修医でみなさまにはご迷惑をかけてばかりですが、よりよい医療人になれるよう研鑽を積んで参りたいと思っております。引き続きご指導のほどよろしくお願いたします。



臨床研修医 原田 晃

私は大阪公立大学のプログラマーで、初期研修の1年目という、医者になって最初の1年をこの浅香山病院で過ごさせていただいております。責任と主体性が求められる医者という仕事に対して、初めは大きな不安もありました。しかし、指導医の先生方だけでなく、看護師、検査技師、事務、全ての職種の方が本当に優

しく、何度も皆さんに支えられて、日々研鑽を積むことができたと感じております。

入りたての頃は右も左も分からずご迷惑をおかけしてしまいました。しかし、皆様のご指導ご鞭撻のお陰で、机上の学習だけでは学び得なかった、実践的な手技や疾患に関する知識を身につけることができていると実感しております。

浅香山病院での勤務は残り半年となりましたが、初心を忘れず、患者様の健康のために日々精進していこうと存じております。今後ともよろしくお願申し上げます。

# 浅香山病院 学会・研究会発表等

(2023年1月～2023年9月実績)

## 学会・研究会

種類	発表(演題)名	発表者名	所属	会名	発表年月日
学会・研究会発表	光療法と回想法による睡眠改善	河口 真由美、高見 公一	介み	第23回大老協賛誌会	2023/1/20
	脊椎転移を発生した緩和ケアの一例に対しHOPEを考慮し障害受容に合わせた取り組み	坂坂 尚	リ	第3回大阪府理学療法士会 南支店新年症例発表会	2023/1/22
	日本の精神科病院における患者から看護職が受けた暴力報告書の分析	齋藤 雄一	看	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023	2023/3/10,11
	精神衛生	篠崎 和弘	精	一般社団法人メンタルケア協会	2023/4/30
	あなたはもうですか? 精神科病院で患者への虐待に気づいたら ～ケースメソッドを用いた事例検討～	齋藤 雄一	看	日本精神保健看護学会 第33回学術集会・総会	2023/5/13
	デジタル脳波の黎明期	篠崎 和弘	精	Berger Day 2023(日本薬物脳波学会)	2023/5/20
	長期入院患者への料理を用いた集団精神療法の効果 ～看護師の介入と参加した患者の変化～	田上 かおり、二宮 直子	看	第48回日本精神科看護学術集会	2023/6/2
	コロナ禍における認知症家族教室のオンライン配信の課題と今後の展望	稲田 敬子、三好 豊子、山本 朝美、 釜江 和恵、山川 みやえ	看	第24回日本認知症ケア学会大会	2023/6/3
	若年性認知症者の暴力に対する要因分析による職員の意識変容の効果	三好 豊子、釜江 和恵	看	第24回日本認知症ケア学会大会	2023/6/3
	感染対策	中原 宣子	透	第68回日本透析医学会学術集会	2023/6/18
	多職種協働の「はまじり」利点	島津 聖子	看	第119回日本精神神経学会学術総会	2023/6/24
	AR/VRに期待すること	釜江 和恵	精	認知症講演会 in 南大阪	2023/7/29
	シンポジウム指定発言:ニューロモデュレーションにおけるパラダイムシフト ウェアラブルデバイスを利用した認知症評価指標の探索	篠崎 和弘 奥宮 太郎、坂野 晴彦、釜江 和恵	精 精	第25回日本薬物脳波学会学術集会スポンサーシンポジウム 学術改革領域研究会	2023/8/5 2023/8/26
	若年発症で著明な前頭葉症状やパーキンソンズを呈した兄弟症例	中山 愛梨、竹田 佳世、繁信 和恵、他	精 心	第47回日本神経心理学学会学術集会	2023/9/7
	行動制限最小化について	齋藤 雄一	看	日本精神科看護協会大阪府支部「行動制限最小化研修会 in Web」	2023/1/21
長期化するコロナ禍が及ぼす地域の認知症患者への影響	釜江 和恵	精	堺市認知症サポート医会議	2023/1/31	
認知症4大疾患、せん妄における症状と対応方法等	三好 豊子	看	大阪府社会福祉事業団「堺市看護職員認知症対応力向上研修」	2023/1/18～2/8	
認知症の方との関わりについて	三好 豊子	看	住吉区社会福祉協議会「令和4年度住吉区認知症施策推進会議 (すみちゃんるるるネット)専門職向け研修会」	2023/1/31	
浅香山病院における行動制限最小化に関する取り組み	齋藤 雄一 正木 慶大	看 精	奈良県立医科大学附属病院「行動制限最小化研修会」	2023/2/8	
実際の事例を通して、認知症のかかわり方を学ぶ	山本 朝美	看	松原市社会福祉協議会「令和4年度松原市認知症サポーター スタッフアップ講座」	2023/2/22	
「看護必要度」を使ったリスク評価	河田 津也	看	一般社団法人ソーシャル・バージョン&マネジメントラボ 「すべての看護職のためのスタッフアップ研修」	2023/2/28 ～3/27	
一般演題4(2題)	篠崎 和弘(座長)	精	第45回Fm0研究会	2023/3/4	
一般演題1(3題)	高橋 隼(座長)	精	第45回Fm0研究会	2023/3/4	
地域移行を考える 一権利擁護の視点から	島津 聖子	看	医療法人 爽神堂七山病院「長期入院者の地域移行研修会」	2023/3/17	
レビー小体型認知症の治療と本人・家族支援	繁信 和恵	精	レビー小体型認知症を考える in 四国	2023/4/22	
高齢者の発達障害と認知症	釜江 和恵	精	第24回大分認知症カンファレンス	2023/5/13	
統合失調症薬物治療ガイドラインにおける現在の薬物治療の考え方	篠崎 和弘(座長)	精	Psychiatry Seminar(大塚製薬)	2023/5/16	
回復過程にあわせたリハビリテーション	島津 聖子	看	一般社団法人日本精神科看護協会「オンデマンド研修会」	2023/5/16 ～2024/3/8	
地域生活を支える社会資源の活用と連携	島津 聖子	看	一般社団法人日本精神科看護協会「オンデマンド研修会」	2023/5/16 ～2024/3/8	
ハンズヘルパーの夢、脳波が脳波になるまで	篠崎 和弘(座長)	精	Berger Day2023(日本薬物脳波学会)	2023/5/20	
救急初期対応技術	齋藤 雄一	看	公益社団法人大阪府看護協会「クリティカルケア認定看護師教育課程」	2023/5/22	
トラックセッション2 知ろう、作ろう。認知症当事者が住みやすい世界	繁信 和恵	精	アルツハイマー病研究会第24回学術シンポジウム	2023/5/27	
当院における統合失調症の治療戦略	篠崎 和弘(座長)	精	精神科学学術講演会(大塚製薬)	2023/6/6	
統合失調症薬物治療の未来とガンマオキシレーション研究の現在地	篠崎 和弘(座長)	精	精神科学学術講演会(大塚製薬)	2023/6/6	
地域生活を支える看護	島津 聖子	看	一般社団法人日本精神科看護協会「精神科認定看護師教育課程 精神科看護II」	2023/6/21	
うつ病や不安症はなぜ女性に多いか	篠崎 和弘(座長)	精	第119回日本精神神経学会 第17回生涯教育研修会	2023/6/24	
認知症ケアの実践	山本 朝美	看	社会福祉法人ジーケー社会福祉会「台湾 馬偕大学・元培科技大学実習」	2023/7/26	
明日から使える園芸活動	川村 明代	テ	(一社)和歌山県作業療法士会主催 認知症ケアに携わる専門職のリハビリテーション研修会	2023/8/2	
腎臓病を悪化させないための日常生活のコツ	中原 宣子	透	CKD(慢性腎臓病)教室	2023/8/5	
地域移行を考える 一権利擁護の視点から	島津 聖子	看	医療法人 松伯会桜坂病院「病院職員研修」	2023/8/30	
認知症理解と看護ケア	稲田 敬子	看	一般社団法人日本精神科看護協会「大阪府支部研修会」	2023/9/2	
薬との上手な付き合い方	大塚 和輝	透	CKD(慢性腎臓病)教室	2023/9/2	
一般口演 「記憶・言語」	繁信 和恵	精	第48回神経心理学	2023/9/7	
看護倫理	齋藤 雄一	看	一般社団法人日本精神科看護協会 「精神科認定看護師ブランチアップ研修会」	2023/9/11	
手術を受ける患者・家族の理解とケア	川崎 恵理子	看	兵庫医科大学「認定看護師教育課程(手術看護分野)」	2023/9/27	
褥瘡予防や褥瘡発生時のケアの実践	森本 亜希子(インストラクター)	看	公益社団法人大阪府看護協会「今日から実践できる褥瘡ケア③」	2023/1/26,27	
褥瘡予防や褥瘡発生時のケアの実践	森本 亜希子(インストラクター)	看	公益社団法人大阪府看護協会「今日から実践できる褥瘡ケア①」	2023/6/15,16	
グループワークによる事例検討および全体発表	島津 聖子(ファシリテーター)	看	大阪府訪問看護ステーション協会「精神科訪問看護研修会」	2023/2/6,8/6	
グループワークによる事例検討および全体発表	島津 聖子(ファシリテーター)	看	厚生労働省「入居者訪問支援事業訪問支援員養成研修」	2023/9/4	
褥瘡予防や褥瘡発生時のケアの実践	森本 亜希子(インストラクター)	看	公益社団法人大阪府看護協会「今日から実践できる褥瘡ケア②」	2023/9/14,15	
こころの健康問題を持つ人の看護②	正木 慶大	精	大阪警察病院看護専門学校	8回	
精神看護学II	正木 慶大	精	大阪医専 実践看護学科	18回	
精神医学I	正木 慶大	精	森/宮医療大学 作業療法学科	15回	
臨床精神医学	正木 慶大	精	四條畷学園大学 総合リハビリテーション学部	9回	
精神看護学	正木 慶大	精	大阪公立大学大学院看護学専攻	4回	
精神医学I	正木 慶大	精	大阪医専 作業療法学科	11回	
神経・生埋心理学	正木 慶大	精	神戸女子大学 心理学部	3回	
リハビリテーション論	三ツ石 一智、桑山 貴好	リ	大阪総合福祉専門学校	18回	
看護論演習	河田 津也	看	公益社団法人大阪府看護協会「大阪府専任教員養成講習会」	5回	

## 論文・著書

論文・著書名	著者(全員)	所属	誌名、巻：ページ、年
器質性症候群へのいざない オルゴール時計症候群	吉山 顕次、繁信 和恵	精	月刊精神科、42:380-388,2023
認知症におけるとらわれ・こだわりと対応	繁信 和恵、池田 学	精	精神科治療学、38(2):225-231,2023
若年性認知症者のための支援制度の使い方	柏木 一恵、繁信 和恵	精	老年精神医学雑誌、34:52-59,2023
マネジメントツールとしての看護必要度の活用意向に関する研究 ～看護必要度全国研修会アンケート結果分析より～	河田 津也	看	日本臨床看護マネジメント学会誌、4:12-24,2023
看護必要度を活用して多職種で取り組む食支援	河田 津也	看	ジェネラリスト教育コンソーシアム 「看護必要度を使って多職種協働にチャレンジしよう」、18:90-95,2023
An international research agenda for clozapine-resistant schizophrenia	Luyckx JJ, Gonzalez-Diaz JM, Guu TW, van der Horst MZ, van Dellen E, Boks MP, Guloksz S, DeLisi LE, Sommer IE, Cummins R, Shiers D, Lee J, Every-Palmer S, Mhalla A, Chadly Z, Chen SKW, Cotes RO, Takahashi S, Benros ME, Wagner E, Correll CU, Hasan A, Siskind D, Endres D, McCabe J, Tiihonen J	精	Lancet Psychiatry 10(8):644-652,2023
Impact of individual factors and personality trait on psychological problems of family members living with staff of a COVID-19 frontline hospital: A cross-sectional self-administered anonymous questionnaire survey	Uenishi S, Buyo M, Sato S, Kojitani H, Odachi R, Matsuoka T, Okuda Y, Kimoto S, Hironishi M, Takahashi S	精	Psychiatry and Clinical Neuroscience Report 2(2):e110,2023
A heterozygous splicing variant IVS9-7A > T in intron 9 of the MAPT gene in a patient with right-temporal variant frontotemporal dementia with atypical 4 repeat tauopathy.	Kohji Mori, Kazuo Shigenobu, Goichi Beck, Ryota Uozumi, Yuto Satake, Maki Suzuki, Shizuko Kondo, Shiho Gotoh, Yuki Yonenobu, Makiko Kawai, Yuki Suzuki, Yuko Saito, Eiichi Morii, Masato Hasegawa, Hideki Mochizuki, Shigeo Murayama, Manabu Ikeda	精	Acta neuropathologica communications 10:11(1):130, pii: 130,2023 Aug
認知症のBPSDに対する精神科での入院治療	繁信 和恵	精	精神科臨床Legato、9(1):31-35,2023
器質性症候群へのいざない オルゴール時計症候群	吉山 顕次、繁信 和恵	精	月刊精神科、42:380-388,2023
医療領域の心理アセスメント ～ チーム医療に生かし、支援につなげる	小辻 希世子、和田 野鳥 他	心	公認心理師の基本を学ぶテキスト 心理的アセスメント(共著、第8章担当、ミネルヴァ書房、2023)
ピオン辞典(分担翻訳担当:頭文字「P」から始まる用語)	著者 ラファエル・E・ロベスコルボ 監訳者 松本 邦裕 訳者 住 貴浩 他	心	ピオン辞典(金剛出版),2023
園芸(花植え・野菜栽培)	川村 明代	デ	精神科リハビリテーション評価ハンドブック:546-550,2023
難治精神疾患と余暇活動	川村 明代	デ	臨床作業療法NOVA、20(3):127-132,2023

## 主講演演会

講演会・勉強会名	演題名	講師名	開催年月日
第45回Fm0研究会	一般演題11題		2023/3/4

## 研修医による学会・研修会発表

発表(演題)名	発表者名	会名	発表年月日
左下股が腫れた若年女性の1例	畑 夏生	第64回プライマリ・ケア合同カンファレンス	2023/3/2
入院時心電図にてST上昇がみられた急性胆管炎の1例	阿瀬 葵	第65回プライマリ・ケア合同カンファレンス	2023/6/15
右縦隔腫大を認めた1例	並河 由華	第66回プライマリ・ケア合同カンファレンス	2023/9/21

所属: 精(精神科)、透(人工透析センター)、介み(介護老人保健施設みあ・かーさ)、リ(リハビリテーション部)、看(看護部)、心(臨床心理学)、デ(デイケア室)

総合病院浅香山病院 臨床研究研修センター